２９．１１．２
杉並区広報課

お月見うどん会が行われました

昨日１日、区立桃井第四小学校（杉並区善福寺 3－3－5）では、5 年生が手作りしたうどんが、地域の方々にふるまわれました。昨日の 11 月 1 日は十三夜にあたり、昔からススキとともに栗や芋など秋の作物を供え、月を楽しみながら収穫に感謝する風習があります。うどん作りも十三夜と同様、昔からこの地域に受け継がれてきた伝統文化で、子どもたちの呼びかけに、地域住民など 500 名ほどが来場しました。

桃井第四小学校では、毎年、5 年生が総合学習の授業の中で、地域の伝統文化を学んでいます。今年度の 5 年生は、6 年生に地域のことを聞いたり、古くからこの地域で暮らすお年寄りなどから昔のことを教わりました。すると、この地域には、わら馬づくりや薪能、流鏑馬など、多くの伝統行事が残っていることがわかりました。また、まつりや慶弔の行事の締めとして、うどんがふるまわれて来たこともわかりました。

杉並区の西部のこのあたりは、水が不足していて、たくさんの水が必要なコメ作りは向いていませんでした。そこで、代用作物として小麦が育てられ、うどんとして食べられてきました。しかし、最近では自宅でうどんを手作りする習慣もなくなってしまいました。そこで、6 月には地域の方を講師に招き、5 年生たちがうどん作りを学びました。ほとんどの児童が初めての経験でしたが、自宅に帰ってからも家族とともに、うどん作りに取り組み、腕を上げてきました。9 月には、学校のお祭りでは、「ももしうどん」として、地域の方々にふるまわれると大変好評で、地域の歴史とともに、伝統文化として、みんなにも作り方を広めてほしいとの声が上がりました。

この声を受けて、今回は十三夜を見ながら、うどんを食べてもらおうと、この会が開催されました。1 日午前 10 時、うどん作りのスタートです。小麦粉に食塩水をまぜてこねる。袋に入れて 1 時間半寝かせる。その後も、もむ、寝かせる、踏む、伸ばす、切る、ゆでる工程を経て、午後 6 時の「お月見うどん会」の開会となりました。開会の時間には、夜空に美しい十三夜も姿を見せ、およそ 500 人の来場者にうどんがふるまわれました。ある児童は、「一人で作るのは面倒だけど、友達や家族と一緒に作ると楽しいし、何より普段のものとは比較にならないほど、小麦の香りもあって美味しいです。」と笑顔で話していました。

【問い合わせ先】
桃井第四小学校：電話０３－３３９０－３１８５